

消防出初め式放水訓練中継送水要領

（放水開始） 水幕放水の立ち上げを確認（ラッパ吹鳴）後

- ① 元ポンプは水利部署したなら、エンジン始動、揚水した後、待機
ホースを2本展張し中継ポンプの吸水口に消火栓媒介を使い、つなぐ。
- ② 中継ポンプは中継部署したなら、エンジン停止状態、放水口は全開で待機
吸管は使用せず、吸水口に消火栓媒介を装着し元ポンプのホースを待ち受ける。
ホースを2本展張し放水に備える。筒先は「直」状態で下向き
※中継媒介は中継ポンプが用意する。

（注意！！）

※元ポンプからの不用意な送水圧により、ポンプの破損、転倒等を防ぐため放水口は全開にしておく。

- ③ 元ポンプは水幕放水の立ち上げ完了を確認後、送水を開始する。（ラッパ吹鳴）

指揮者（中継 P）	→	指揮者（元 P）	→	操作員（元 P）
「放水はじめ。」		「放水はじめ。」		「よし。」

徐々に水圧を上げていき、0.3Mpa を維持する。

（注意！！）

急劇な送水は厳禁。

- ④ 中継ポンプのエンジン始動（アイドリング回転）真空操作は不要！！
連成計に注意しながら、送水圧 0.3Mpa を維持する。（スロットルを操作する。）
平坦地なら送水操作もほぼ不要。スルー状態で良いと思う。連成計も送水計も 0.3Mpa
のはず、必要な時のみスロットルを操作

（注意！！）

※連成計（送られてくる圧）が負圧になるような、送水操作は絶対にしない。

（最低圧 0.05～.0.1Mpa はキープ）

※元ポンプの故障、エンジン停止などにより負圧になりそうときは、すぐに
送水操作を中止する。（エンジン回転をアイドリングにする。）

(放水中止) ラッパの吹鳴により放水中止

- ① ラッパ吹鳴を受け、筒先員は筒先を全開のまま待機。
- ② 指揮者（中継 P）は、中継ポンプ位置に戻り、指揮者（元 P）、操作員（中 P）に放水中止を指示
- ③ 中 P はエンジン停止のみ、バルブは「開」のまま操作はしない。
指揮者（元 P）は元ポンプに至り、放水中止を指示
指揮者（中継 P） 指揮者（元 P） 操作員（元 P）
「放水止め。」 → 「放水止め。」 → 「よし。」
- ④ 指揮者（元 P）は元ポンプ放口の「閉」、エンジン停止を確認し、中継ポンプに戻る。
指揮者（中継 P）に「伝達終わり。」
- ⑤ 指揮者（中継 P）は筒先に至り「伝達終わり。」 操作員「よし。」
- ⑥ 放水中止を確認し、各指揮者の号令で完全撤収をする。
操作員 → 撤収後、自動車脇にて整列し待機
- ⑦ 指揮者は現地指揮本部にて森山技術部長へ終了報告
「〇〇方面隊（〇〇分団ポンプ車隊）放水訓練終了しました。人員機械器具異常なし。」
- ⑧ 指揮者の指揮により乗車、前進出発退場
- ⑨ パレード待機場所に向かう（※部署した隊列順に退場）

